

北海道浮魚ニュース

令和4(2022)年度12号

2022年8月24日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

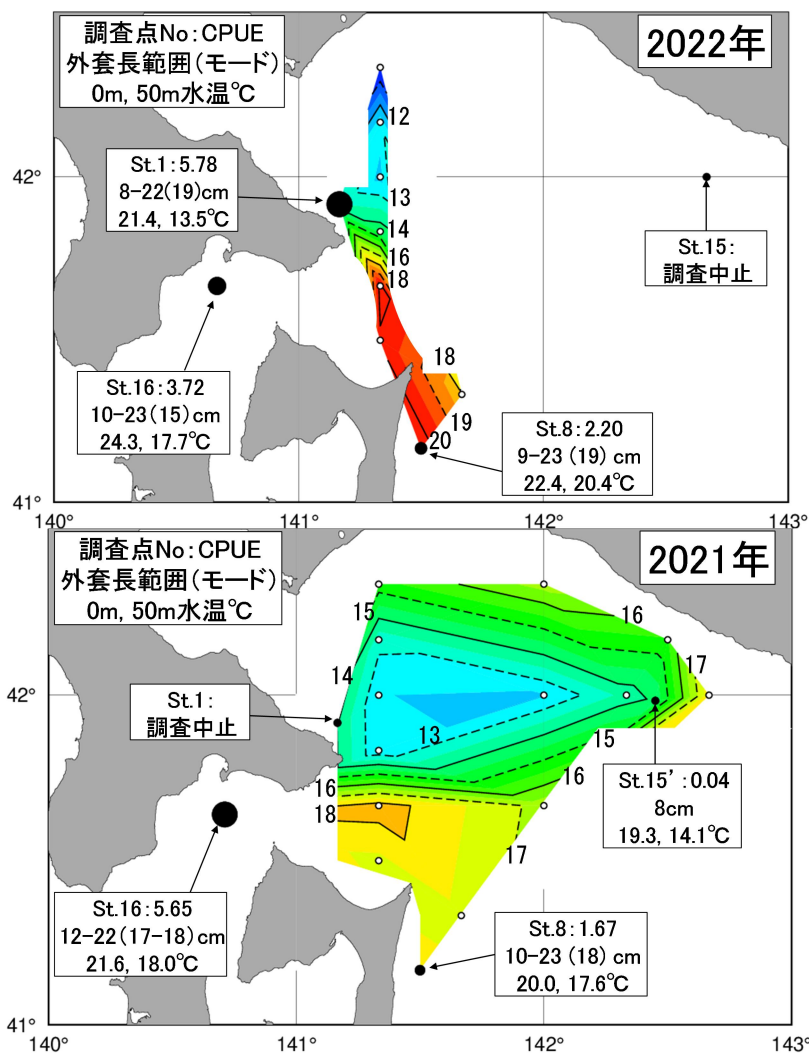
【URL】 http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html

◎太平洋いか類漁場一斉調査結果

8月17日～21日の期間、津軽海峡～道南太平洋で、函館水産試験場調査船金星丸(151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備)により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。なお、今回は時化のため、東経142°以東の調査は実施できませんでした。

- ・スルメイカの分布密度は昨年および過去5年平均を上回ったが、2010年以降の低い水準の範囲内であった。
- ・サイズは過去5年平均に比べ小さめであった。

1. 水温分布(図1)



2022年の漁獲調査点3点の表面水温は21.4～24.3℃(昨年19.3～21.6℃)、深度50m層の水温は13.5～20.4℃(昨年14.1～18.0℃)でした。

深度50m層の水温は津軽海峡東側～下北半島周辺で高く、恵山岬沖から登別沖にかけて15℃以下の比較的低温の海域が見られました。

図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの等温線図(上:2022年、下:2021年)
矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例。○は海洋観測点

2. スルメイカの分布密度 (図1、2)

2022年の漁獲調査点3点のCPUE(2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数)は2.20~5.78(2021年3点:0.04~5.65)で、CPUEが最も高かったのは南茅部沖のSt.1でした。漁獲調査を行った3点の平均CPUEは3.90で2021年の値(2.45)および過去5年平均値(2.39)を上回りましたが、2010年以降続く低い水準の範囲内でした。

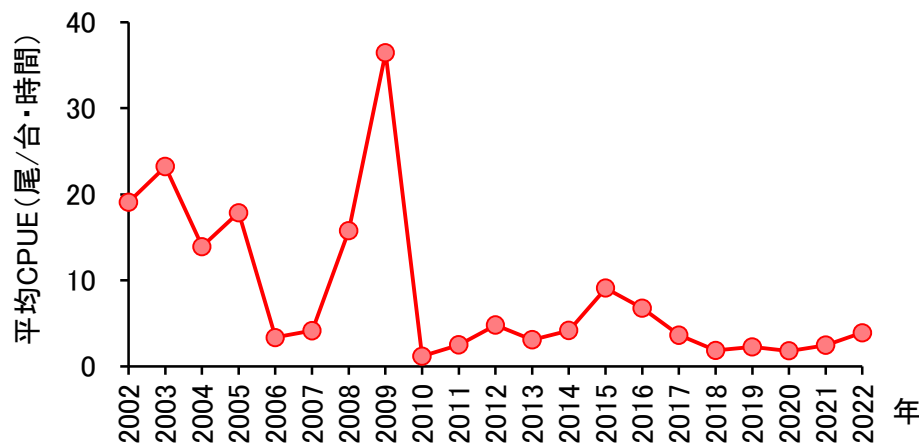


図2 太平洋いか類漁場一斉調査(道南太平洋8月)におけるスルメイカの平均CPUEの推移

3. スルメイカの大きさ(図3)

2022年のスルメイカの外套長は8~23cm(昨年と同様)の範囲にありました。外套長の出現率は19cm(20.6%)と15cm(13.5%)が高く、二峰型を示しました(昨年は18cmが最も多い単峰型)。過去5年平均と比較すると、20cm以上の大型の出現率が低く、15cm以下の小型の出現率が高くなっていました。

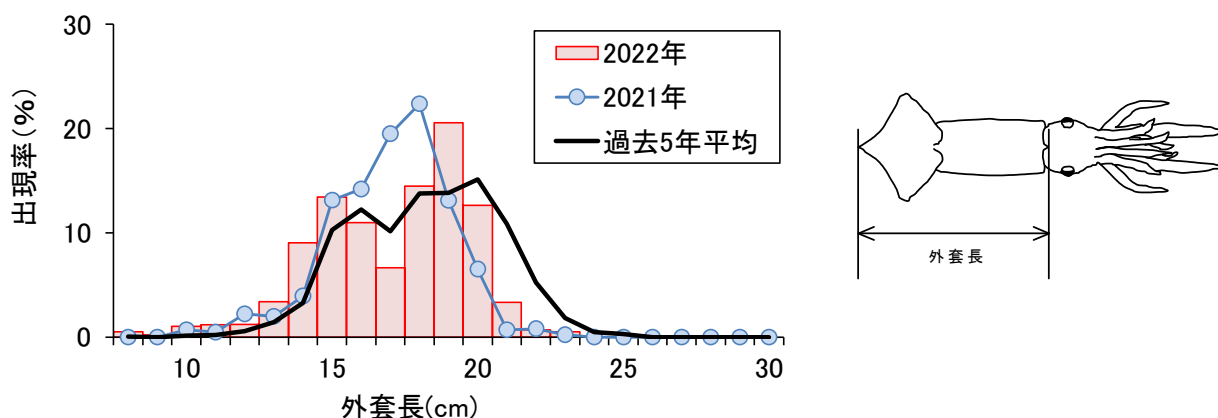


図3 調査海域全体のスルメイカの外套長組成

5. 標識放流 (図4)

南茅部沖の調査点 St. 1 で 58 尾、函館沖の調査点 St. 16 で 42 尾の標識放流を行いました。放流したイカのヒレ付け根に黄色の標識タグが付いています。標識のついたスルメイカを発見された方は、最寄りの水産試験場までご連絡いただきますようお願いします。

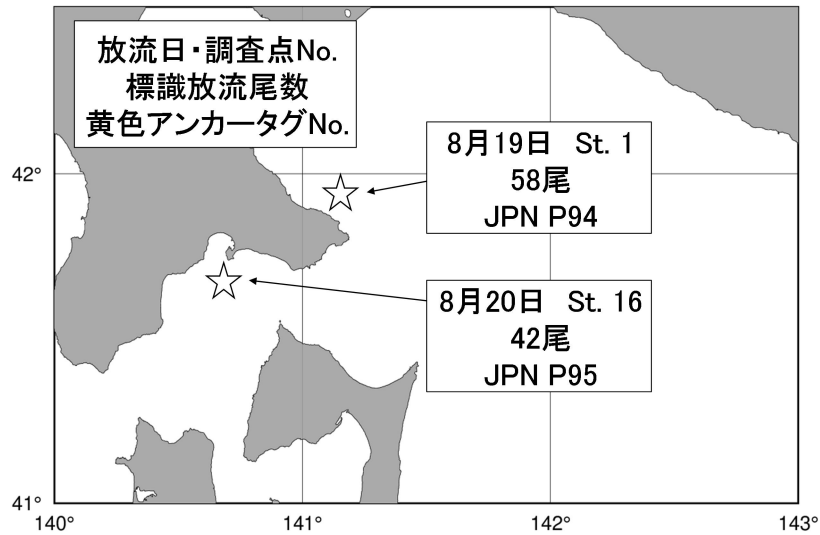


図4 標識放流の位置、放流日、尾数、及び標識記号・番号

(函館水産試験場調査研究部 TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)